

揺れ動く監督の心の向こうに現在の沖縄が見えてくる

ドキュメンタリー映画『沖縄 / 大和』鑑賞会

監督・撮影・編集：比嘉賢多 [2014年 / 99分 / カラー]



辺野古新基地の建設が民意を押しつぶして暴力的に進行している沖縄。奄美大島から与那国島まで、中国への軍事的包囲網として巨大な自衛隊ミサイル基地群がつくられようとしている沖縄。とどまることのない米兵による性犯罪…

私たちは、こうした沖縄の「軍事」「基地」をめぐる沖縄民衆の抗議と抵抗の姿を、さまざまなドキュメンタリー映画で観てきました。もちろんそれは沖縄のまがうことない現実の一つです。

しかし、沖縄の問題はそれだけに終わるわけではありません。基地に反対する人々もいれば、基地を容認する、さらには基地反対の運動にヘイトまがいの言葉を投げる人々もいる。さらに「構造的差別」とひとくくりにはできない、心情と感性の領域での「沖縄」と「大和」の間の越えがたい境界線＝「ライン」がある。沖縄県内での世代間の「ライン」もある…そしてぬぐうことのできない「沖縄戦」の記憶…「ライン」とは何か？何のために？

沖縄出身の若き映像作家比嘉賢多氏のいくつもの賞を受賞した『沖縄 / 大和』は、その重層的で生々しい沖縄の現在の局面を切り取るようにした、これまでにないドキュメンタリーです。

なかなか鑑賞する機会のない作品です。ぜひこの機会にご覧ください。

この映画を見て、いや、映画の枠を越えた日常生活でも否応なしに気づかされるのは、隔てられた沖縄と大和のそれぞれの内部でさえ、いかに人々は分断され孤立させられているかということだ。沖縄の内部で基地反対派と推進派は一本の道路を挟んで対立し、同様のことは本土でも起こる。この「沖 / 縄 / 大 / 和」、あるいは「お / き / な / わ / や / ま / と」とでも言うべき絶望的な状況を真摯に見つめることからしか、連帯は始まらない。

(結城秀勇 PFF アワード 2014 セレクションメンバー)

ここ数年の「沖縄」や「基地問題」を題材としたドキュメンタリーのなかで最も優れた作品だと思う。
(桃原一彦 社会学：沖縄国際大学)

ウチナー（沖縄）とヤマトゥ（日本）の間に引かれた境界線（ライン）とはいったい何か。この問いを抱える誰にとっても必見の映像作品が、一人の若者によって生み出された。
(高橋哲哉)



7月15日(土) 14時～16時
市民ネットワーク千葉県 4階会議室
資料代：500円
主催：市民ネットワーク千葉県
043-201-1051